

市が災害や急病等による傷病者の率先した救助活動や、災害時の避難行動が積極的に行える青少年の育成を図ることを目的に、根室高校で全校生徒を対象とした防災教室を、約1週間にわたって開きました。

消防署の指導のもと、3年生を対象に開かれた救命講習では、AEDの使用方法や心肺蘇生方法を約2時間にわたって学びました。生徒たちは消防職員からの説明を受けた後、心肺蘇生方法の実技に挑戦し、体に染み込ませるよう熱心に練習に取り組み、受講した全生徒が普通救命講習修了証を取得しました。

授業を通して「防災」を学ぶ

— 根室高校防災教室12/11～20 —



グループに分かれAEDの使用方法について説明を受ける

最終日には釧路地方気象台の協力のもと、1・2年生を対象に防災教室が開かれました。根室管内の高校では初となる津波実験装置を利用した授業が行われ、生徒たちは地震による津波の恐怖を体験。また、市内の避難所を記憶し、チームに分かれて書き出した、非常時での持ち出し品を思いっく限り書き出していくといった「防災ゲーム」も行われ、生徒たちは頭と体を使いながら防災に関する知識を身につけ、授業を通じて防災意識を高めていきました。



津波実験装置を使って津波のメカニズムを学ぶ

明るく開放的な院内を見学

— 新・市立根室病院内覧会1/14 —

新市立根室病院で1月29日の仮開院を前に、一般市民向けの見学会が開かれ、市民約千人が真新しい院内や設備を見学しました。

訪れた市民は、あらかじめ設定されたルートに沿って内科診療室や手術室、人口透析室などを見学し、眺めのよい病室や新たに外来診療に取り入れられたブロック受付や、各診療室前の待合に診察番号を表示するデジタルサイネージといった設備と、診療の流れについての職員から説明を受けました。見学を終えた市民からは「素晴らしい設備ですね。」「きれいで開放感がある。」「といった感想が多く聞かれました。



山本一太内閣府特命担当大臣 北方領土視察

— 1/16 —



山本一太内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）が、北方領土の視察のため大臣就任後初めて根室を訪れました。山本大臣は、長谷川市長の案内で納沙布岬から間近に見える貝殻島や水晶島を望み「こんなに近いとは思わなかった。」と感想を述べ、その後北方四島交流センターで行われた懇談会では、元島民や返還運動関係団体からの意見に真剣に耳を傾けていました。

記者会見では、「皆さんからの要望は責任を持って首相に直接伝えたい。」と話した後、「安部政権を本格政権にし、腰を据えて領土問題に取り組みたい。」と、力強い決意を示しました。

商店街と連携 初の取り組み

— 北方領土特別啓発イベント12/20～1/6 —

北方領土返還要求運動原点の地から領土返還にかける思いを再認識することを目的に、北方領土特別啓発イベントがまちなかサロンで開かれ、期間中、市民約3,800人が訪れ、にぎわいを見せました。今回の啓発イベントは緑町の商店街連合会の年末大売り出しと連携した初の取り組みとなり、家族連れが多く見られる会場では、啓発パネルの展示やタブレットを使った北方領土クイズコーナー、ミニ縁日コーナーなどの催しが行われ、子どもたちはニムオロ戦隊シマレンジャーとの記念撮影や四島輪投げやヨーヨー釣りに挑戦し、楽しいひとときを過ごしました。

